

# 学ぶエンジンに火をつける 「辞書引き学習法」ハンドブック

監修：深谷圭助



## 「辞書引き学習法」について、開発者の深谷先生にお聞きしました

### ◆この学習法の効果は？

「辞書引き学習法」は、2つの効果を子どもたちにもたらすと考えています。

- ① 言語能力（語彙力・読解力・表現力）が身につきます。それが読書力や、コミュニケーション能力を格段に高めることとなります。
- ② 自ら学び、自ら考え、自ら答えを導く面白さに気づいていきます。このような学習態度が中学生になっても続いていくようになります。辞書引き学習は、どの子も持っている「学ぶエンジン」に火をつけるのです。

### ◆「辞書引き学習法」に適した国語辞典とは？

- ① ひらがなが読めて書けるようになったらすぐ始められるよう、総ふりがなつきが基本です。
- ② 語数は3万語以上で、国語以外の教科（理科や社会）で学ぶことばが収録されているとよいです。他教科の学習でも国語辞典を使うことは、このメソッドの重要なポイントだからです。
- ③ 小学校低学年から取り組みますので、見出し語がくっきりして見やすいもの、イラストが豊富で、見ていて親しみやすい辞書がよいと考えます。

上の写真は、「チャレンジ 小学国語辞典 第五版」ですが、この3つの条件に合った辞典として推薦します。



辞書引き学習法の開発者  
深谷圭助先生

※本ハンドブックの中で、さらに詳しく辞書引き学習のことを説明しています。

5AA042



# 辞書を引いて 子どもものの力を伸ばしましょう！

子どもに辞書を与え、活用させることで、自分で考え答えを導く力、読解力を高めることができます。

辞書引き学習法の開発者 深谷圭助先生



「魚を千匹与えるよりも、一匹の魚の釣り方を教えることが大切」

「魚を千匹与えるよりも、一匹の魚の釣り方を教えることが大切」という言葉があります。子どものために、千匹の魚を与えるよりも、一匹の魚の釣り方を教えたほうが、その子にとっての「生きる力」となるという意味です。

「生きる」とは学び続けることについてよいでしょう。人生をより充実したものにするためには、さまざまな学び方を身につけていなければなりません。大切なのは与えられた知識を身につけるのではなく、子どもが自ら学ぶ姿勢を身につけることです。

辞書引きが「学びの動機・きっかけを生む」子どもが意欲を持って勉強するためには、子ども自身が学びの動機やきっかけを見つけていくことが大切です。

教師や親が与える動機は一方的であることが多いのに対し、辞書を用いた学びの動機は、子どもが自ら得るものです。辞書引き学習法のもっとも大切なポイントは、子どもがいつでも、自分の力で、学び始めるチャンス

があるということ。教師や親の都合によらず、子どもが自ら学ぶ機会が保障されるということです。

一冊の辞書を入力として、自分で「答え」を探す面白さを知ると、子どもたちは片時も辞書を離さず、自分の興味関心のおもむくままに、たくましく学び始めます。

そして辞書引き学習法は、定量の知識を詰め込む教育とは違って、好きなだけ自主的に学べますから、子どもの可能性を最大限に引き出すことができます。

そのためには、まずは一冊の辞書を用意すること、これがすべての出発点です。

### なぜ小学校低学年で辞書を与えるのか

小学校低学年で辞書を与えるのは、小学校に入学すると、本格的に文字を習います。まず、かな文字の読み方、書き方を習い、続いて漢字の読み書きを勉強します。この時期の子どもたちの書きことば「へ」の関心は非常に高く、喜んで文字を読んだり、書いたりするものです。小学校低学年の時期こそ「ことばの吸収力」がピークに達するといってもいいでしょう。

この学び意欲の高い時期に、辞書を与え

て子どもが好きなだけ学べる機会を提供する。そうすれば、自ら学び、自ら考え、自ら答えを導く面白さに気づくはずだ。私はそう考えました。

この時期に辞書を与えると、子どもは喜んでページをめくるようになります。総ふりがなつきの辞書であれば、かな文字を「通り読める」小学校低学年でも読むことはできます。もちろんかな文字さえ分かっていたら、調べることもできるのです。

### 辞書選びのポイント

上に書いたとおり、小学校一年生のひらがなを習うタイミングで辞書を与えたいと思います。やはり、読めるということを大切にしたいので、総ふりがなつきの辞書が好まれています。

また、調べたいことばが載っていない、子どものモチベーションが低下するので、一定以上の語彙を収録している辞書が望ましいでしょう。一年生の語彙は五千〜六千と言われています。さまざまな調べ学習を行う際は、少なくとも三万語以上の語彙を網羅している辞書が必要になります。

また、イラスト、図のある辞書もよいと思います。

「二年生から使える」と銘打った国語辞典の中には語彙数が少なく、内容の稚拙な辞書もあるようです。ことばの説明をしつかり行っている本格的な辞書であり、かつ総ふりがなつきであることが、一年生の使う辞書として適したものです。

こうした条件を満たしている辞書として、「チャレンジ 小学国語辞典」(ベネッセコーポレーション)などを推薦しています。

深谷圭助先生

愛知教育大学卒業、名古屋大学大学院博士後期課程修了。2005年、立命館小学校の設置メンバーとなり、同校教頭を経て、08年4月、同校校長。10年4月より中部大学准教授。1989年に着任した愛知県刈谷市立稲城小学校で、小学校一年生から国語辞典を引かせる「辞書引き学習法」を実践。子どもの「自ら学ぶ力」を伸ばし、「本当の学力」を形成する方法として注目を集め、新聞、テレビなどマスコミでも多く取り上げられる。「7歳から辞書を引いて頭をきたえる」(すばる舎刊)、「チャレンジ 辞書引き学習法」(はじめての辞書引きワザ)、「同 漢字辞典編」(ベネッセコーポレーション刊)など著書多数。(ベネッセ)ポレシオン辞典企画アドバイザー。